

第85回

日本社会学会大会 報告要旨集

2012年11月3日(土)
2012年11月4日(日)

——開催校——

札幌学院大学

国際・エリアスタディ (2)

教室 A314
司会者 園田 茂人 (東京大学)

1. 連鎖的グローバルな婚姻行動に関する実証的研究
2. 現代中国農村における海外出稼ぎの影響及び農業活性化現象
3. 現代中国における都市移住と定住意識
4. 中国の若者における日本ポピュラー文化の受容
5. 企業化された中国の有機農業

京都大学 郝 洪 芳
京都大学 許 燕 華
神戸大学 連 興 檳
大阪市立大学 祝 方 悦
早稲田大学 閻 美 芳

歴史・社会史・生活史 (4)

教室 A301
司会者 坂田 勝彦 (東日本国際大学)

1. 明治期の刑罰体制の再検討
2. 日本統治下朝鮮ハンセン病政策の考察
3. 戦後日本における住民指紋登録の興隆とその実態
4. 排除される〈もう一つのシマ社会〉と青木恵哉

立命館大学 櫻 井 悟 史
立命館大学 吉 田 幸 恵
日本学術振興会 高 野 麻 子
山口県立大学 中 村 文 哉

English Session (4)(Education, Welfare)

Place :A305
Chairperson:Chika Shinohara(St.Andrew's University)

- 1.School Dropout Determinants

Tohoku University SARKER MD
SHAHIDUL ISLAM

- 2.Educational Homogamy and Propinquity in Marriage Markets over the Life Course

Tohoku University チハヤ・ダ・シルヴァ
ギリエルメ・ケンジ

- 3.Mechanism on Building "Welfare Community" by Citizens

Tokyo Institute of Technology 湯 上 千 春

- 4.Chinese religious movement that transcends cultural boundaries

Hokkaido University 伍 嘉 誠

戦争を社会学する (研活テーマセッション (4))

教室 B101
司会者 荻野 昌弘 (関西学院大学)

1. 東京大空襲死者の集合的記憶
2. 被爆 1 世の沈黙と抵抗
3. 「新しいテロリズム」概念の登場と変容
4. 消費社会の記述と冷戦の修辭

慶應義塾大学 木 村 豊
武蔵大学 徳 久 美 生 子
東京大学 河 村 賢
筑波大学 野 上 元

高等教育および専門職養成研修 (実地訓練) 場面の研究におけるビデオデータの活用 (テーマセッション (8))

教室 B102
司会者 榎田 美雄 (徳島大学)

1. 少人数医学教育のビデオ・エスノグラフィー
2. 法科大学院教育における反対尋問のビデオ分析
3. 航空管制研修でのレーダー画面の機能に関する研究
4. 授業実践における教師の課題解決と判断基準

国際基督教大学 岡 田 光 弘
東海大学 北 村 隆 憲
東京大学 真 鍋 陸 太 郎
上越教育大学 五 十 嵐 素 子

法科大学院教育における反対尋問のビデオ分析

○ 東海大学 北村隆憲

徳島大学 樫田美雄

鹿児島大学 米田憲市

1 目的

ある法科大学院におけるローヤリング教育の一環として行われた公開模擬裁判のビデオデータを観察すると、検察・弁護役の学生が証人に対して行う反対尋問で、長い沈黙や唐突な尋問トピックの変更などのトラブルが生じていた。法律実務家用の反対尋問のマニュアルでは、証人の返答をコントロールするために誘導尋問の使用が推奨されているが、そうしたマニュアルには、実際の(模擬)法廷で生じている、誘導尋問が設定する質問条件を超える証人の返答に対してどのようにふるまうべきかについてはまったく言及されていない。これは、法廷尋問に関する実務家教育上の一種のブラインドスポットとなっており、こうした専門家教育上重要な意味を持つ問題領域を適切に探求できれば、その知見を臨床法学教育の実践に生かすことができると考えられる。

2 方法

そこで、データとして、ある法科大学院のローヤリング教育のなかで行われた公開模擬刑事裁判を録画して、そこでのコミュニケーション上の相互行為を詳細に分析した。研究方法は、ビデオ分析であり、コミュニケーション上の相互行為を詳細に分析可能な方法として会話分析の手法を利用して、ビデオ撮影による映像データとその詳細なトランスクリプトとに基づき、相互行為の文脈に配意しつつ参与者たちの観点からコミュニケーションの実践活動の内容と形式とを検討した。このような分析方法は、直感や記憶に頼らないで「状況的」行為のマイクロ分析を行えるとともに、研究データを他の研究者に示して解釈の妥当性のレビューを可能にし、また、特定の研究目的以外にも利用可能なデータベースの構築をも可能にする。

3 結果

分析の結果、反対尋問におけるトラブルは、発話シーケンス上のほぼ共通の位置で生じていることが観察された。それは、尋問者の「誘導尋問」に対して証人が「はい/いいえ」という質問条件を超える返答(つまり、発話タイプ非同調的返答[Type non-conforming response]を産出した直後の位置であった。ビデオデータの中では、このトラブルに対処しようという学生自身の実践上の試みも観察でき、こうした試みが反対尋問という相互行為上、どのような帰結をもたらしているか、ということを検討することができた。

4 結論

以上から、実際の臨床法学教育場面のビデオデータの詳細な分析を通じて、専門職向けの「マニュアル」という専門職コミュニティの知識ストックには抜け落ちている活動領域が観察可能となるとともに、このような教育上のブラインドスポットを特定することにより、こうしたビデオ分析の知見を、臨床法学教育の方法論開発へと生かすこともできるとおもわれる。

航空管制研修でのレーダー画面の機能に関する研究

○東京大学 真鍋陸太郎

東海大学 北村 隆憲

1 目的

この報告の目的は、航空管制研修を対象として、航空機の動きを表示するとともに管制官からの指示を入力するための道具であるレーダー画面について、それが担当管制官(研修生)と補助卓担当官(研修生)とのコミュニケーションにとっても重要な機能をもつことを、その役割とともに明らかにすることである。

2 方法

本報告では、航空管制研修の様子を複数台のビデオカメラを用いて複数の対象を撮影した動画を、1つの動画として合成して分析を容易にしたものを作成した。この合成動画をもちいて、担当管制官と補助卓担当者とのやりとりについて、レーダー画面の指差しなどの動作と会話とに着目してどのような事柄が発生しているかについて考察する。対象とした研修では、担当管制官と補助卓管制官との相談と捉えられる会話が発生する場面がいくつかあり、そのうちのいくつかの場面はレーダー画面を指差ししての会話となっている。それら会話が発生している場面の動作や発言について比較考察してレーダー画面が持つ役割についての考察をおこなう。さらに、研修直後に教員と研修生とで、研修の様子を振り返る時間があり、本研究ではその様子も記録(撮影)していることから、この振り返りのための時間の様子を参照して、研修時におこっている事象の意味をより明確にすることとする。

3 結果

分析の結果、レーダー画面は次のような機能を持っていることが分かった。ひとつは担当管制官自身が、指示すべき内容を自分のために確認するために目視と指を差して確認する際に用いられているものである。もうひとつは、担当管制官が航空機に指示しようとする内容をレーダー画面上の航空機の位置を補助卓担当官に指を差して認識せしめ、自らの指示内容が問題ないかを問う場面での機能である。さらに、もうひとつは、補助卓担当官から注目すべき航空機(=レーダー画面上のマーク)を指差しして担当管制官に注意を促す際に用いるものである。

4 結論

以上から、航空管制研修において、レーダー画面は航空機の現存位置を示すものであり、管制官からの指示をパイロットへ伝える道具である他に、担当管制官と補助卓担当者とのコミュニケーションの際に、航空機の位置や指示すべき内容をよりの確にするための媒体として機能していることが確認できた。具体的にその機能は、①官制担当官自らの確認のための機能、②官制担当官から補助卓担当官への意志の伝達のための機能、③補助卓担当官から官制担当官へ注意を促すための機能の3つであった。